

高齢化が進むベトナムにおける家族の役割認識

しば はら きみ え
柴 原 君 江

〈要 旨〉

アジアの国々も高齢化時代を迎えるようになった。社会的な支援体制づくりには時間がかかる問題であるが、祖父母や両親が高齢になった時、家族の支援はどこまで可能か。

近年のベトナムでは高齢化の進み方が早い。ベトナムは歴史的に家族・親族は共同という意識を持ち続け、家族を思いやる気持ちが強い。しかし、経済の発展やグローバル化にともなう生活の変化の中で、家族の役割も少しずつ変化してきている。家族に対する関心の欠如など、家族の関係は徐々に軽視されてきていると心配する声も聞く。

ベトナムでは高齢者に対する家族の役割をどのように認識しているのだろうか。これから社会を担っていく若い世代の人々が、高齢社会に直面した時にどのような対応を考えているかを把握するために調査を行った。

その結果、社会福祉制度が不十分な中で、「高齢になった父母の援助は兄弟姉妹で協力して行い、仕事も両立させる」、「家庭教育と家族間の良好な関係は最も大切である」、「社会問題の原因は、家族に対する関心の欠如や家族関係の軽視に根差している」、「世代間格差をなくす努力と親子で異なる意見を理解する努力が必要」、「社会福祉政策を積極的に進める必要がある」等の意見が寄せられた。

ベトナムで最も大切にされてきた社会の細胞である「家族」、居心地の良い家庭環境、人間関係を破壊することなく高齢社会問題への対処が必要との認識が把握された。

〈キーワード〉

家族関係、家族の役割認識、高齢化、保健・福祉制度

1. はじめに 問題の所在

高齢社会にとって家族は重要な存在である。家族とは、近親者の深い感情的かかわりあいでは結ばれた幸福追求の集団と言われるように、高齢者と共に生きる存在である。しかし、最近では核家族の進展とともに単身世帯や高齢者世帯が増加し、家族機能の弱体化や縮小・崩壊が見られ

る。森岡¹⁾によると「個人化が進み、家族の集団性がゆらいでいる。個人化とは、家族の集団生活の内外に家族成員個々の活動領域が形成され、そこでの活動が家族役割の遂行に必要な程度を超えて拡大し、個人の自己実現が求められる傾向」になった。「家族生活は、家族危機の克服の過程でもある」としている。

我が国では経済的・精神的なよりどころとしての家族のつながり、家族の意義を大切にしてきた。しかし、個人が自立性を高めると、家族の存在意義が変化してくる。個人化が深まれば外部機関への依存が高くなる。超高齢社会となった我が国では、単身高齢者や老々介護の増加により介護を担当する社会的ネットワークに依存せざるを得なくなった。社会的介護も、介護者不足から十分に受けられない実態もある。

我が国と同様に、歴史的に農業社会をベースにして発展してきたベトナムの家族はどうであろうか。ベトナムの留学生に「あなたにとって大切なものは何か」と聞くと一様に「家族」と答える。家族から離れて他国で生活する者にとって当然と思えるが、ベトナムで大学生に質問しても同様な答えが返ってきた。ベトナムの人達にとって家族は大切な存在なのである。

ベトナムの家族は歴史的に血縁共同体を構成し、儒教の影響によって家族の結合は強く、伝統的な家族規範や価値観が存在する。家族内では親子を縦軸に、兄弟姉妹を横軸とする結合をもつ生活共同体であるが、年齢秩序を基盤とするきわめて強い道德規範によって律せられている。また、家族は社会の細胞と言われるようにベトナムの社会を構成する経済や生活の単位として重要な役割をもっている。²⁾

ベトナムにおける1986年以降の社会経済改革「ドイモイ政策」^(註1)は、家族の役割や位置づけに変化をもたらした。当時の食糧難時代に備えて、農業を基本に食料増産に従事し、経済的安定を図るために個人経営を認め、国際的な経済協力にも参加するという観点である。

ドイモイ政策以降も、従来からの儒教的価値観は残されており、国家的な危機の中で男女が互いに助け合わなければ危機の回避はできない、家族が国家のために尽くすのはあたりまえと考えられるようになった。³⁾

アジア諸国における経済発展は、家族や女性の生き方にも少しずつ変化をもたらした。特にベトナムの社会は、我が国の伝統的な家族の形態や女性の生き方と似た側面がある。

我が国では、第2次世界大戦後アメリカの占領政策によってかつてない自由と経済発展をもたらした。長い間、女性は家庭の中で家事・育児中心の生活であったが、高度経済成長時代に男性と同等に働き、男女共同社会をめざした。社会の変化とともに伝統的な家族の形態は徐々に変化し、近年は個人を中心にした生活を享受している。

我が国の社会的変化が急速であったのと同様に、ベトナムの社会も大きくゆらいでいる。「ドイモイ政策」以降、近年の経済の発展やグローバル化の影響から家族や女性の生き方に大きな変化をもたらしている。ベトナムの女性は、伝統的に家庭の運営、子育て、家事に従事し、さらに農業や市場進出によって収入を助け、家族が安心して生活できるように家計の責任を担ってきた。生産

と消費の自給自足による経済的役割は常に共同体に開かれ、部分的には社会化されたものになった。「ドイモイ政策」は、市場経済システムの導入と対外開放政策からなる社会主義的市場経済の推進によって人々の意識や家庭生活を変えることになった。⁴⁾

家族関係の変容については、女性の役割評価が社会化されたことである。つまり、家父長制が衰退し女性が家族の長として役割を担う家族が増加してきた。我が国では、夫婦を「夫と妻」と言うが、ベトナムでは「妻と夫」と言う。これは、従来から女性が家族を支えてきた歴史的背景と社会的文化的背景の中から得た経験智が社会的地位を獲得させてきたと思われる。⁵⁾

ベトナムの女性が家族の中で社会的地位を獲得したということは、今後、社会的にも国際的にも活躍し社会・経済発展に大きく寄与するものと考えられる。

ベトナムは、社会の変化と共に長寿化、核家族化が進んでいる。夫婦の対等性は存在していると言われているが、女性は常に過度な家計管理や家事労働を引き受け、決して男女平等とは思えない面もある。核家族化が進む中で、老親の介護をめぐる社会問題になる可能性も高い。今後、家族の役割がどのように変化していくのか、福祉制度はどのように整備されるのか興味ある課題である。

高い経済成長を遂げているベトナムの高齡化対策として、医療、年金、社会保障、高齡者介護等はどうに進められるのだろうか。ベトナムで最も大切にされてきた社会の細胞である家族、居心地の良い家庭環境、人間関係を破壊することなく高齡化問題に対処していく新たな力を期待するものである。

II. 研究の目的

高齡化が進むベトナムでは、医療サービスや福祉制度の整備とともに地域間格差が問題になっている。同時に高齡者の豊かな人生経験を次世代に伝え、家庭内で重要な存在であることを認識し高齡化に備えようとしている。歴史的に家族関係を大切にする国民性が、どのような時代にあっても持続する人間性を失わない社会でありうるだろうか。

ベトナムの社会は核家族化、長寿化、多様化、個人化が進みはじめている。グローバル化により多くの人々と交流するようになると、多様性も一つの価値となる。違う面を受け入れ、社会に位置づけることが求められ、個人の意識も社会の仕組みも変えていくことになる。個人化傾向を強めるほど、相手の立場と意思を尊重し理解する能力を備えた個人が求められるのだが、今後、家族への意識や役割は変化していくのだろうか。ベトナムの若い世代が高齡者に対する役割をどのように認識しているか把握したいと考えた。

III. 本研究の背景

1. ベトナムの社会

(1) ドイモイ政策と国内産業

ベトナムは間もなく1億人の人口を抱える国になると言われている。戦争による大きな犠牲を払いながら独立し、1986年、計画経済を放棄して市場経済を導入した。

経済の運営を、国家が管理するシステムから市場経済システムに変換するため、市場を立ち上げ、物品の調達システム、貨幣の使用、物品の購入など膨大な時間と費用をかけた。

インフレや情報不足、長い間の戦争によって国際的に孤立していたベトナムが外国投資法の制定によって国際的に受け入れられ、次第に市場経済が安定していった。ベトナム自体が新たな産業を起こして国際競争力のある商品で利益を上げているわけではなく、外国企業の直接投資や支援によって輸出額が伸びているに過ぎない。長い間の戦争のため先を考えて経営を行うという思考は見られず、短期的な利益を追う傾向にある。⁶⁾

21世紀に入ると、経済成長率は7.5%台になり、インフレも落ち着いて一人あたりの平均所得はドイモイ政策を実施した時点から20年間で3倍に増えた。

ベトナムは農業国であり、世界第二位の米輸出国である。豊かな農地、気候、コメやコーヒー、コショウの生産など豊富な資源を輸出する力がある。経済的に豊かになったとはいえ、将来的に発展していく基礎を自ら整備し安定させるまでには時間がかかるようだ。産業の基礎となる工場の建設も、資金、技術、人材が不足しているため進まない。長い先を見越した投資や、経営をしていこうとする考えはあまり持たないと言われている。

坪井⁷⁾によると「政治や経済の基本的枠組みや社会の運用の仕方は変化していない。庶民の生き方にもさしたる変化はないように思う。『楽天的でしたたかな』生き方をしている」のである。そこがまた、ベトナムの国民性の魅力なのかもしれない。

(2) ベトナムの家族

① 地域の特徴

外務省のデータ⁸⁾によるとベトナムの人口は約9,250万人(2014年)であり、都市部より農村部の人口比率が高い。年代別では15歳未満の割合が減少し、60歳以上は8.4%と増加している。人口抑制と貧困解消のため、出生抑制政策をとり合計特殊出生率は1.74(2013年)、平均寿命75.76歳である。

ベトナムは南北に細長い国土で、気候風土の地域的特徴がある。北部は首都ハノイを中心に発展し、紅河デルタ地域に人口が集中している。中部は商業都市ダナン、フエを中心に発展し北部、南部に比べると農業生産量の伸びが低いが、最近では重工業の投資が増加している。

南部はホーチミン市を中心に、市場経済導入の基盤が整備されている。1990年代に入るとド

イモイ政策の成果が上がりはじめ高い経済成長を続けた。しかし、急速な物価上昇により政府はインフレ対策に取り組み、2012年には下降傾向になっている。従来のベトナムは、農業を経済の中心とする国であったが、ドイモイ政策後の生産性の向上、外資部門への解放によって農業が縮小し、工業、建設業が大きく伸びている。労働力人口は2005年以降一貫して増加し、女性は48.5%を占めている。

②家族

ベトナムでは、54の民族がそれぞれの固有な習慣を維持して生活している。キン族が多数民族で、北部では儒教の影響を受け固有の習慣を維持している。北部キン族は東アジア的な父系親族集団を形成し、先祖祭祀を行う。紅河デルタ地帯の稲作の歴史は古く、封鎖的・自律的な村落社会を形成してきた。村落内の地縁結合、父系親族の血縁結合は強く、村を中心にして小規模な活動がされていた。独立後はすべての土地が共有化され、集団化時代の平均主義的分配システムは世帯の収入の格差をおさえ、家族に世帯の平準化が促進された。家族法が制定されてから家族計画が普及し、世帯の規模が小さくなり核家族が主流になった。

中部や南部の家族・親族構造は、先住民クメール人の土地にキン族が移住したという歴史的背景がある。北部の父系親族を中心にしたものとは異なり、東南アジア特有の双系的な親族構造である。世帯は核家族中心で、両親とは末の子が同居する傾向がある。子どもが結婚して新しく家族を形成するとき、実家の隣や周囲に新しく家を増やしていく。南部の家族は個人主義的で家族計画は浸透せず、凝集的な社会集団の形成はされにくい。⁹⁾

ベトナムの家族は近隣との人間関係を大切にしている。冠婚葬祭など行事も親族だけでなく近隣とつながりあって行う。冠婚の場で近隣や通りすがりの方たちも招き入れて、皆で楽しくお祝いをしている場面に直面したことがあった。

我が国では、近年特に身近な家族のみで冠婚葬祭などの行事を行うようになり、近隣の関係も形式的で、特に大都市では隣人であっても関心を持たなくなってきた。

ベトナムの家族は、一つ屋根の下で生活し家計を共にしているという概念とは別に、多様な家族形態がある。北部のキン族は父系の親族集団を形成し、「一人っ子または二人っ子政策」が厳格にされたが、少数民族では弾力的である。

ベトナム戦争後、多くのベトナム人が海外に渡り、父母兄弟姉妹が別々の国に分かれて住んでも家族という意識を持ち続けていた。日本で暮らすベトナム人は日本に定住しながら、祖国や他の国に暮らす家族と繋がっていた。祖国との関係性は自分の生活世界であり、また居住している国の規定にも影響を受けていた。¹⁰⁾

近年、若い人達がアメリカやカナダ、ヨーロッパに留学している。わが国にも多くの学生が留学しているが、経済成長により個人所得が増加したこと、将来、自国の日本企業への就職や通訳として働くために留学熱が盛んになったようだ。JASSOによると2014年のベトナムの留学生数は26、

439人で、中国に次いで第2位である。在日ベトナム人は85,449人で年々増加し、自国民として互いに思いやる気持ちで繋がっている。家族から離れて他国に居住していても、身近に居住している以上に家族・親族は共同という意識を持ち続けられるのは、家族を思いやる気持ちや家族の中の役割・責任感が強いのではないかと思われる。

③社会と家族

ベトナムの社会は他の発展途上国と異なり、社会主義体制のもとで中央から地方に至る人民委員会等の組織によって開発が統制されている。ベトナムは伝統的な共同体をベースにした「むら社会」であり、村落共同体の組織の上に行政の機能があり、民主的な運営を行っている。歴史的にみると「家族」や「家」制度は日本と共通した部分がみられる。

我が国では、少子高齢化の進展と共に家族関係が大きく変貌した。核家族化や超高齢化に伴い、2000年(平成12年)の社会福祉基礎構造改革により、超高齢社会に備えて社会福祉の共通基盤を作ってきた。「介護保険制度」や「障害者自立支援制度」を実施し国民全体で支える対策によって社会福祉の質と量の向上を課題とした。介護保険制度は在宅介護支援が基本であるが、現在では高齢者施設整備に重点を置かざるを得ない状態になっている。社会的介護を整備してから家族内介護は徐々に変貌した。超高齢化により高齢者が高齢者を介護する家庭が増え、施設内介護の希望者が増大し、家族関係も大きく変化した。少子高齢化、超高齢化、単身高齢者や高齢者世帯の増加は、介護保険制度の成り行きも危うくしている。

ベトナムは、農業をベースにして成り立つ社会で、家族関係や地域の繋がりが伝統的な価値観がある。家族はベトナムの社会を構成する経済や生活の単位として重要な役割を持っていて、家族や親族同士の関係が様々な社会関係の基本になっている。親族は我国の親戚とよく似ているが、その繋がりは強固で困難な問題には互いに助け合う。家庭と近隣社会の繋がりは、互いに話し合う会議があり、長老を中心にした共同体としての意識が強い。

現在でも儒教の影響が強く目上の人を敬う精神が根底にある。初めて会った人に対して、自分より年齢が上かどうかを確かめて尊敬の態度で接する。初対面の挨拶の中で年齢を聞くことは当たり前のように行われている。

家庭においては夫婦関係が主で、妻・母が家庭生活の維持者としての地位が確保されている。男性は外で働き収入を得る。家庭外の役割は主として男性が受け持つ。女性は家庭生活を維持する役割だが、財産の分与は男女で公平であり、離婚の際も財産は公平に分与される。(婚姻家族法第95条)

ベトナム社会主義共和国憲法64条には「家族は社会的細胞である。国家は結婚と家族に保護を与えるものである」とされている。「社会はよい家庭があるときのみ安定し、家庭は社会が安泰するとよりよくなる」と説いたのはホー・チ・ミン主席である。

2. ベトナムの社会保障制度

(1) 保健医療の現状

ベトナムは南北に細長い地形であるため、地域により大きく異なる。気候・気温の差だけでなく、医療環境・医療水準にも違いがある。病院数、公立病院、私立病院など医療環境も異なり、医療スタッフや設備、医療機器、患者の受入れ能力も我が国とは大きく異なる。

住民の医療や健康に対する関心は高く、近年病院数は増加し、ハノイやホーチミン市などの大都市では国際水準を標榜する病院もある。病院や医療機関の設置は中央、地方(省レベル、県レベル、町村レベル)にあり、民間活力の導入も進められているが、医療部門の中心は公的機関である。¹¹⁾

表 1. ベトナムの医療機関(2012)

	医療省管轄 (中央)	医療局 ^(注4) の 管轄(地方)	他部門管轄	計
病院 ^(注1)	41	963	26	1,030
介護・リハビリ病院		35	27	62
皮膚科病院	3	20		23
助産院		11		11
地域総合診療院 ^(注2)	2	621	18	641
町村レベル・機関・企業の診療所		10,757	715	11,472 ^(注3)

出典:(2014)寺元実 Jetro海外研究員レポート

注1. 専門科、検査室、手術室などを備えた医療機関。

注2. 県レベルの診療治療機関。

注3. このうち、機関・企業の診療所数は715。

注4. 省人民委員会医療局の管轄する地方の医療機関。

大都市では近代的な大病院がいくつかあるが、患者の受容能力からしても十分と言えない。受診希望者の受付も、多数になると途中で切らなくてはならない程の満員状態である。拠点病院等の診療実績では、満床率(計画病床数に対する入院患者数)は173%から193%と高く、一つのベッドを複数の患者が共用、廊下にもベッドを置いて患者を収容しなければならないことがあり院内感染も気になる。乳児のケアも、母親が協力しなければ職員だけでは対応しきれないこともあるようだ。小児病院では、多くの母親が乳児を抱いて看護師が沐浴をしてくれる順番を待っている場面があった。

都市では24時間体制の私立病院もあるが、地方の医療機関とは大きく異なり、医療水準の格差は拡大している。地方で暮らす人々は町村レベル・機関・企業の診療所を利用する。これらの数は行政単位に見合った数が設置されていて身近で利用しやすい。しかし、病状によっては医師や設備が整った病院の利用が必要になり、都市まで長時間かけて通い、交通費や時には宿泊費も必要になり経済的負担は大きい。交通の便も決して良いとは言えない。

(2) 健康問題・主要疾病

ベトナムの主な疾病は感染症である。肺炎、上気道感染、下痢・胃腸炎などが多いが、最近では本態性高血圧など生活習慣病も増加し、交通事故による外傷なども高い順位になっている。死因の主な疾患は交通事故等による頭蓋内損傷、HIVやAIDSなどである。さらに脳内出血、心不全、急性心筋梗塞、脳卒中などの死亡率も増加している。

ベトナムの保健対策では、保健医療サービスの質の改善や公平性、効率性を重視することがうたわれている。乳幼児の予防接種も無料で行われている。国の保健政策は、第1次から第3次医療までの全レベルにおける保健医療サービスの質を改善すること、公平性と効率性を重視することが計画されている。それらは、すべての国民にプライマリーヘルスケアの提供、質の高い医療アクセスの提供、罹患率の低下と平均寿命の向上が目標になっている。¹²⁾

表 2. 主要疾病

順位	疾患名	件数(10万人)
1	肺炎	469.4
2	下痢・胃腸炎	277.6
3	急性気管支炎・細気管支炎	269.0
4	急性咽頭炎・喉頭炎	200.7
5	その他の外傷 多発外傷	147.2
6	胃炎・十二指腸炎	108.7
7	本態性高血圧症	98.1
8	交通外傷	95.0
9	その他の消化器疾患	94.7
10	その他の上気道感染	84.5

出典：Health Statistics Yearbook 伊藤智朗 ¹²⁾p.6

(3) 医療保障制度

2009年に医療保険制度ができ、段階的に対象者が広げられ普及がすすめられ、2020年を目標に国民皆保障をめざしている。

- ・高齢者に健康保険カードの給付を行い、約36万人に配布を推進している。
- ・医療費の自己負担額が免除：90歳以上の67%にあたる約9万人が対象。
- ・医療保険は、強制加入と任意加入がある。任意保険の自主加入が11%、公務員保険が9%、貧困者対象保険が18%、6歳未満の小児の保険が11%である。しかし、貧困層への保険の基準が厳しく、加入が難しいという実態がある。

2014年3月に我が国の厚生労働省とベトナム保健省が医療保健分野の協力推進の覚書を交わした。その内容は、社会保障制度としてすべての人が適切な予防、治療等の保健医療サービ

スを、必要な時に支払い可能な費用で受けられるUniversal Health Coverage^(注2)の実現である。高齡化社会への対応、感染症予防管理や災害対策、医療専門職の人材開発、先進医療技術、医薬品・医療機器の導入、IT技術を活用して健康づくりに役立つ情報サービスの利用・提供等である。また、両国の病院、施設や大学間の協力促進等積極的な協力が提案されている。

ベトナムでは、IT技術を活用して医療機関間における医療情報の交換を活発化する地域医療情報のネットワークの導入可能性が考えられている。これは、中心になる国立病院や省政府等が管理し、個別の医療機関で使用する「院内サービス」と医療機関間の連携を促進する「連携サービス」を対象の医療機関に提供するものである。¹³⁾

地域医療情報のネットワークにより患者が集中する病院では、患者紹介システム利用により、混雑緩和がはかられ高度な医療サービスが期待される。また、遠隔診断システムを利用して、患者の医療画像を共有して効果的な対応法が協議できる。これによって医療格差の是正が可能になる。高齡化社会の対応として、すべての人が保健医療サービスを公平に受けられることが必要である。

ベトナムでは、保健医療施設が近くにないため医療が受けられない地域があり、また、医療技術者が少なく、保健・看護領域の指導を担当する看護師も不足しているという実態がある。

貧困層や医療ニーズがあるのに医療が受けられない人々に対して相互扶助システムが必要であるが、国の医療制度や経済状態によっては簡単なことではない。

高齡化先進国である日本が、アジアでは早い時期に創ってきた健康増進、早期発見・予防、治療、機能回復システム(Universal Health Coverage)を支援として貢献することが必要である。

(4) 社会福祉制度

① 福祉政策

ベトナムへの福祉援助は、先進諸国の協力による障害者援助や医療的支援が行われてきた。社会福祉政策の方針としては、2011年5月「ベトナムの社会福祉に関する言及」、ベトナム国家vgp newsに「グエンタンズン首相の応答」¹⁴⁾として出されている。

その内容は、2001～2010年までの経済・社会発展戦略は、すべての人々、特に貧困者・貧困地帯に安心な暮らしと社会福祉の向上に多くの貢献をした。

残っている課題は、以下の項目が挙げられている。

- ・ 保険体系の質の向上、積極的加入のための政策
- ・ 貧困を減らす計画の効果的な実現
- ・ 各社会援助対象者への社会的支援
- ・ 社会福祉や基本的社会サービス体系の多様な発展増進のための財源の確保

これらは「安心な暮らし及び社会福祉のさらなる確保」として2011～2020年における社会・経済発展戦略の主な内容である。

②高齢者扶養

高齢者扶養に関して、ベトナム「婚姻家族法」では「親は社会に役立つ子を養育する義務を負う。また、子は親を尊重、養護、養育する義務を負う。孫は祖父母を尊重、養護、養育する義務を負う。家族構成員は養護し合い、助け合う義務を負う」と基本原則が定められている。さらに、親子の関係では、親は子を愛し、保護、養育し、子の権利利益を保護すると同時に、子は親を愛し、尊重、感謝、孝行する義務があることを規定している。

親が病気や高齢になった時、「親を養護、扶養する義務権利」があると定められ、家族構成員は、互いを世話し保護し助けなければならないとしている。

2010年に「高齢者法」が制定され、高齢者のサポート方針が明らかになった。高齢者法では高齢者を扶養する責任はその家族にあると定められている。また、高齢者の経済的、健康的、社会的生活を保障する法律も定められた。前述した生活費や無料保険カードの支給である。高齢者の多くは、家族と同居あるいは近隣に居住しているので、生活面や精神面で安心した生活を送ることができるといわれている。佐藤¹⁵⁾の高齢者扶養の調査でも「婚姻家族法」が規定する親子関係の基本原則が子世代・孫世代に浸透し、父母・祖父母への高齢者扶養が行われているという実態が報告されている。

しかし、農村地帯の若い世代では、現金収入を求めて都市に働きに出ているので、高齢者の単身生活形態が増えつつある。

③老齢年金

我が国では、20歳から60歳までの40年間の保険料を納めると65歳から老齢基礎年金が支給される。厚生年金の被保険者期間があって、老齢基礎年金を受けるのに必要な期間を満了し、65歳になった時に老齢厚生年金が上乘せして支給される。自営業者は国民年金に加入することになっているので国民皆年金と言える。

ベトナムの公的年金制度は公務員、民間被雇用者を対象としている。民間被雇用者は現役時代の所得に応じた一定額の給付を行う確定給付型の制度をとっている。公的年金のカバー率は1割強と低く、国民皆年金になるためにはまだ時間を要する。

3. 教育と家庭

(1)家庭教育

ベトナム社会における家庭教育の役割は、従来、学校教育より重要であった。裕福な家庭では儒教の家庭教師を招いて個人的に教育をしていた。一般的には家族や血縁関係の年長者が教えていたが、幼少期から子どもの人格形成に大きな役割を持っていた。年長者を敬うこと、他人や社会に迷惑をかけないこと、挨拶や食事のマナーなどである。

ベトナムの人々にとって、家庭は重要なもので「暖かいゆりかご」である。子どもの発育発達に安全な条件を与える場である。1日の疲れを癒し、孤独から解放される場である。伝統的な家庭のメンバー関係は、年上の人に対する尊敬の念と秩序など厳しい規範によって統制されている。年上の人を敬い、年下の人には譲る厳しい規範による対処の仕方でも教育される。祖先を礼拝し、親に感謝するのは当たり前のことで小さい頃から家庭で教育される。父母を敬い孝行心を持つこと、家族メンバーに愛情を持つことは家庭教育の目標である。

子どもは、大人から得る生活上の知識や経験を通して行動の在り方を教えられる。子どもにとって大人は熱心な先生である。挨拶やお礼、生活上のルールは親から厳しく教えられる。日常は台所の仕事の手伝い、買い物などは当然で、動物の世話や畑仕事にも参加させる。様々な生活経験をを通して行動や生活習慣を身につける。幼少時代から各家庭内の教育で行われていることは、社会のルールを守ること、家族への愛情と繋がりを大切にすること、常に兄弟や親族に囲まれたオープンな家庭を築くことにある。

近藤¹⁶⁾によると、従来の育児は超スパルタ式であったようだ。「子供に対しては徹底した性悪論で臨む。大多数の親は、子どもは動物と同じと割り切っている。子どもは自分で物事の良し悪しを判断する能力などない。だから外側からそれを叩きこんでいくのが親の仕事というのがこの国の子育ての一つの基本らしかった」。「ベトナム式子育てのもう一つの基本は何よりも強い子に作りあげること…強靱で、世知にたけ、したたかな人格でなければ、戦乱続きの国を生き抜いていけない」。

体罰は当たり前で、躰なのである。躰の悪さは親の恥だからと言う。ベトナムで「虐待」の話をしたら「虐待とは何をさすか」と親につめよられ、虐待の考え方が異なると感じたことがあった。しかし、最近のベトナムの少子化傾向は、世代間の意見の違いなどから甘やかしの育児傾向もみられる。子どもの虐待に関しても、少しずつ問題視され、乱暴と思える子育て法にも苦勞しているようだ。

(2) 学校教育

ベトナム人の識字率は高く、男性が96%、女性が91%である。教育レベルの高さは、OECDが行うテストの科学的リテラシーでは世界で10位以内に入る。

学校教育は校舎や講師の不足などから二部授業がかなりある。教科書は自己負担のため、経済的事情から学校に通えない子どももあり、特に農村地域に貧困家庭が多いと言われている。教育訓練省は保護者の負担を減らし、教育水準を高めようとしているが、都市と地方では就学率の格差がある。¹⁷⁾

ベトナムの教育界もドイモイ政策を積極的に展開している。国営企業から民間企業へと移行し、国家計画経済から市場経済に変わったため、インフラの整備、教師の意識改革・学校管理、運営の自治化、学生の意識改革を掲げているが、なかなか進まない状況にある。教師も外国語や世界市場の勉強が必要になるため先進諸国で学び、教育の質を高める努力をしている。

ドイモイ政策以前は各学校の経費は基本的に政府の費用で賄われていたが、経済の市場化に

よって国は一部を負担し、それ以外は学校管理主体が自ら集めなければならないので、教育資金は不足しているのが現状である。

児童に対しては、環境教育としてごみ捨てや物を大切にす、動物を守る、節約、大人を敬うこと、祖父母・両親や友人関係を大切にすなどが教育される。

中等教育からホー・チ・ミンの思想が教えられる。国づくりは「独立・自由・幸福」であり、自分達の方で独立をはたし、自由な国づくりに汗を流し、皆で幸福になろうという、生きることへのこだわりが教えられる。学校では先ず「勤勉、儉約、公明正大」について教育される。

ベトナムにおける教育問題として、テストの点数・成績を重視するため、クラスメートを競争相手として見ることが多い。教え方も暗記中心で、問題解決能力、考える力を養う学習は十分と言えない。教育の地域格差があり、親・児童間の学習意欲の差も拡大している。

(3) 家族の変容、核家族化、長寿化、多様化、個人化

我が国の前近代的社会においては、農耕をベースにした家族形態であった。家族は生産と消費の単位であり、3世代家族同居は一般的で、生産、収入、生活機能の大部分は協働で、家族で支え合い生活を成り立たせていた。当然ながら家族の役割は家長(父親)が中心で決定権を持ち、男性は農耕の中心的役割、女性は農耕の合間に家事、育児に責任をもっていた。

産業化の進展に伴って給与生活者が増加すると家族内で行われてきた様々の機能は、分散された。生産は工場で、教育は学校に、安全は警察にと外部の専門領域に移譲されるようになった。このことは、家族機能に大きな変化をもたらした。

1970年代以降は、女性の職場進出に伴って家事や育児の代行サービスが発達する。食品の既製品の増加は、主婦の食事の準備時間を短縮した。育児情報の増大、乳児の離乳食は缶詰やレトルト食品、保育園や保育ママの育児代行が行われるようになった。

ベトナムの社会においても、大きな変革期の中で家庭の基本的役割関係の変化を体験している。伝統的なベトナムの社会では個人、家庭、社会は相互に関連している。個人は家庭を通して社会に影響を与え、社会は家庭を通して個人に影響を及ぼす。今後、さらに進む国際化や女性の社会進出、核家族化は、家族の役割認識にどのように影響するのだろうか。これからベトナムの社会を担っていく若い世代の人たちはどのように考えているのだろうか。

ベトナムの家族には、伝統的な家族規範や価値観が存在する。幼少期から培われてきた家庭における躰、学校教育におけるホー・チ・ミン思想の国づくりを基本にした幸せと生きることへのこだわりがさらに家族の結束を強固にしている。高齢化の進展や単身高齢者の増加、都市化や国際化による生活環境の変化にあっても、伝統的な家族規範や価値観は継続されるのではないかと思われる。

そこでベトナムでは高齢化の進展をどのようにとらえているか、福祉政策が十分行き渡っていない現状で、家族の役割をどのように認識しているかについて、若い層を対象に調査を計画した。

IV. 調査の概要

1. 調査の目的と主旨

福祉政策が行きわたるまでに時間がかかるベトナムにおいては、高齢者に対する家族の援助は欠かせない。地域の援助組織も不十分な中で、家族が高齢者を抱えた時にどのような役割を持つ必要があると考えているか、若い世代を焦点に把握することを目的とした。

ベトナムの家族は、「社会の細胞」といわれるだけに社会を構成する経済や生活の単位として重要な役割を持っている。それだけに家族内の結合は強く、その関係は信頼できる心のよりどころとして位置づけられている。高齡化はアジア諸国において進みつつあるが、ベトナムではそのスピードはアジアで2番目と言われている。しかし、高齢者への社会的支援・援助体制は十分と言えない。祖父母や両親が高齢になった時、家族の役割はどこまで可能か、祖父母の生活支援はどのように準備されるかを考える必要がある。経済の発展や都市化にともなう変化の中で、家族の役割をどのように認識しているだろうか。

ベトナムの若い世代の人々は、自国の歴史、文化への誇りを持っている。ベトナム戦争については語りたくない、その影響については他者から言われたくないと思う者もある。平和が持続していることやドイモイ政策による市場経済の発展が豊かな生活に繋がっていることは幸せなことである。一方、教育改善の遅れ、経済生活の格差、安全性、不平等が改善されることを期待し充実した生活を望む気持がある。若い世代では留学によって諸外国の文化を吸収したいと望むものも多い。純粋で、ナイーブ、最近では将来に備えて預貯金も欠かさず、消費も楽しんでいる。何よりも家庭生活を大切に、家族や仲間と一緒に過ごすことを楽しむ人達である。社会的支援が十分発展していないなかで、高齢者支援をどこまで家族で担うのか、若い世代の生の声を把握したいと思った。

アンケートでは自由記載欄を設け、多くの意見を期待した。

2. 調査方法

アンケート調査

対象：ベトナムに居住する 20 歳から 30 歳代の男女

方法：インターネットによる調査

FBの個人アカウントにアンケート用紙を送付し、回答を依頼。

ベトナムの調査協力者 5 名(留学生 3 名、ベトナムの大学生 2 名)が、日頃つながりのある信頼できるグループに属する約 3000 名に調査用紙を送付した。

調査期間：2014 年 8 月 1 日から 8 月 30 日

調査回収数：219 名

3. 結果

(1) 調査対象者：性別年齢階層別対象，性別職業別対象，性別出身地別対象

- ・調査総数は表3の通り219名。男性53名(24.2%)女性166名(75.8%)で，女性が大半を占めていた。

表3. 性別年齢階層別対象数 N = 219 (%)

	総数	20～24	25～29	30～34	35～39	不明
総数	219(100.0)	119(54.4)	73(33.3)	21(9.6)	4(1.8)	2(0.9)
男	53(24.2)	22(10.0)	22(10.0)	8(3.7)	1(0.5)	0
女	166(75.8)	97(44.3)	51(30.7)	13(5.9)	3(1.4)	2(0.9)

- ・調査対象の職業別では，表4の通り学生が最も多く98名(44.8%)，次いで会社員84名(38.4%)，公務員20名(9.1%)であった。

表4. 性別職業別対象数 N = 219 (%)

	総数	公務員	自営業	会社員	農業	学生	その他
総数	219(100.0)	20(9.1)	13(5.9)	84(38.4)	0(0.0)	98(44.8)	4(1.8)
男	53(24.2)	5(2.3)	3(1.4)	27(12.3)	0	18(8.2)	0
女	166(75.8)	15(6.8)	10(4.6)	57(26.0)	0	80(36.5)	4(1.8)

- ・調査対象者の出身地は表5の通り，中部が最も多く48.4%を占める。次いで南部，北部の順であった。

表5. 性別出身地

	総数	北部	中部	南部
総数	219(100.0)	42(19.2)	106(48.4)	71(32.4)
男	53(24.2)	4(7.5)	26(49.1)	23(43.4)
女	166(75.8)	38(22.9)	80(48.2)	48(28.9)

(2) 父母が高齢になった時の援助者

- ・家族構成のうち祖父母と同居しているものは，72名(32.9%)，同居していないものは，136名(63.5%)であった。祖父母と同居しているものは，男性で16名(30.2%)，女性は56名(33.7%)で大差はない。
- ・父母が高齢になった時の援助者は，表6の通り自分が援助すると答えた者は127名，兄弟親族の協力で援助が70名で合わせて197名(90.0%)であった。男性群は自分と親族で援助がほとんどを占めていた。地域のサービスを受けると答えた者は2名(0.9%)であった。地域のサービスとは，高齢者のケアを含む家事代行サービスであって，全体的に普及しているものではない。

表 6. 父母が高齢になった時の援助者 n=219(%)

	総数	男	女
総数	219(100.0)	53(100.0)	166(100.0)
自分が援助する	127(58.0)	39(73.6)	88(40.2)
兄弟姉妹、親族で援助	70(32.0)	11(20.8)	59(35.5)
近隣の協力を得る	0	0	0
地域のサービスを受ける	2(0.9)	0	2(0.9)
その他	20(9.1)	3(6.4)	17(7.8)

(3) 子育てをしながら働くための条件

- ・子育てをしながら働くために必要なことについて複数回答を依頼したところ、表 7 の通り平均 3.3 項目を選択していた。最も多かったものは、祖母の協力で 178 名(81.3%)であった。次いで、夫の協力、子どもの病気の時の休暇が必要、働きやすい制度等であった。
- ・子どもの病気の時の休暇が必要は 111 名(50.7%)、子育てしやすい制度や法律の充実が 107 名(48.8%)であった。職業別に観察した結果は、大きな差がなかった。

表 7. 子育てをしながら働くためにはどんなことが必要ですか(複数回答) n=219(%)

	総数	公務員	自営業	会社員	学生	他
総数	219(100.0)	20(9.1)	13(5.9)	84(38.4)	98(44.8)	4(1.8)
祖母の子育て協力	178(81.3)	17(85.0)	10(76.9)	65(77.4)	85(86.8)	1(25.0)
夫の協力	125(57.0)	10(50.0)	6(46.2)	54(64.3)	52(53.1)	3(75.0)
子育てしやすい制度、法律	107(48.8)	13(65.0)	6(46.2)	40(47.6)	48(49.0)	0
子どもの病気時の休暇	111(50.7)	11(55.0)	8(61.5)	38(45.2)	52(53.1)	2(50.0)
子どもの安全な遊び場	99(45.2)	9(45.0)	3(23.1)	41(48.8)	45(45.9)	1(25.0)
安全な送迎バス	44(20.1)	3(15.0)	4(30.8)	19(22.6)	18(18.4)	0
母親同士の助け合い	31(14.2)	1(0.5)	2(15.4)	13(15.5)	15(15.3)	0
家事手伝いサービス	19(8.7)	3(15.0)	1(7.8)	12(14.3)	3(3.1)	0
近くに病院が必要	15(6.8)	2(10.0)	0	7(8.3)	6(6.2)	0
その他	3(1.4)	0	0	2(2.4)	1(1.0)	0

(4) 病気や高齢になった親を援助しながら働く場合

病気や高齢になった親を援助しながら働く場合については、表 8 の通り「仕事をやめるか仕事を少なくして父母の援助をする」と「仕事を続けて兄弟姉妹や親族に協力してもらう」がほぼ同数で、大半を占めていた。性別にみても同じ傾向であった。

表 8. 病気や高齢になった親を援助しながら働く場合どんな方法をとるか n=219(%)

	総数	男	女
総数	219(100.0)	53(100.0)	166(100.0)
仕事をやめるか少なくして、父母の援助をする	95(43.3)	24(45.3)	71(42.8)
仕事を続けて、兄弟姉妹や親族に協力してもらう	95(43.3)	23(43.4)	72(43.4)
地域のサービスを受ける	13(5.9)	2(3.8)	11(6.6)
その他	16(7.3)	4(7.5)	12(7.2)

(5) 高齢化、核家族化の社会に必要なこと

高齢化の進展とともに必要なことについて複数回答を依頼したところ、総数 602 平均 2.77 項目が選択された。

表 9 の通り、最も多かったのは、「社会福祉の発展」で、130 名(45.7%)が選択していた。「高齢者や子どもの施設を増やす」は 119 名(54.3%)であった。「家族の繋がりの強化」は 108 名(49.3%)であった。

表 9. 高齢化、核家族化が進むといわれている。今後何が必要か。(複数回答) n=219

	総数	男	女
総数	219(100.0)	53(24.2)	166(75.8)
高齢者や子どもの援助施設を増やす	119(54.3)	24(11.0)	95(43.4)
病院を増やす	45(20.5)	7(13.2)	38(22.9)
学校、子供の保育施設を増やす	22(10.0)	7(13.2)	15(9.0)
高齢者援助の訪問サービス	53(24.2)	11(20.8)	42(25.3)
家族の繋がりを強化する	108(49.3)	22(41.5)	86(51.8)
近隣と連絡体制を強化する	42(19.2)	13(24.5)	29(17.5)
さらなる経済発展が必要	47(21.5)	9(17.0)	38(22.9)
社会福祉の発展が必要	130(59.3)	22(41.5)	108(65.1)
家族の各世代が一緒に暮らすための良い条件を作る	31(14.2)	11(20.8)	20(12.0)
その他	5(2.3)	3(5.7)	2(1.2)

- ・職業別にみると、「社会福祉の発展が必要」と答えた者はどの職業においても 60%が必要と答えていた。「高齢者や子供の援助施設を増やす」については、会社員の 84.5%が必要としていた。次いで、「家族の繋がりの強化」は公務員と会社員が 5 割以上の者が必要と答えていた。

(6) ベトナムの経済・福祉について、希望すること。

ベトナムの経済・福祉について希望すること 14 項目を提示して、優先する順に選択するように依頼した。

その結果、表 10 の通り第 1 に希望する項目は「家族の関係を強化、良好にする」で 81 名

(37.0%), 第2は「今の仕事を拡大していく」で、64名(29.2%), 第3は「福祉制度の発展」で、49名(22.9%)であった。

表 10. ベトナムの経済・福祉について希望すること(複数回答) n=219

優先順位		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
総 数	219														
今の仕事を拡大して行く	64		②												
家族関係を強化・良好にする	81	①													
海外留学・海外で働く	48				④										
ボランティア活動の発展	42					⑤									
農業の効率化・生産拡大	16											⑪			
幼稚園を増やす	10												⑫		
医療の充実・病院を増やす	25									⑨					
福祉制度の発展	49			③											
安全で健康な社会をつくる	44						⑥								
衛生環境サービス	41							⑦							
エネルギーの整備	5														⑭
交通網の整備(公共交通)	34								⑧						
障害者の安全な施設整備	7													⑬	
工業化・機械化に貢献	17										⑩				

(7)これからの社会での働き方や家族の役割について(自由記載)

自由記載の項では、199名(90.9%)が何らかの意見を記入していた。意見なしは20名であった。同様の意見をまとめて整理し、「社会での責任・役割」、「家族の役割」、「家族関係」、「家庭教育」、「自立・自覚・個人化」、「相互作用・援助」、「問題点」の7項目に分類した。

複数の内容を表現した者も多かったが、分類した具体的な内容を以下に整理した。同様の表現で最も多かったのは「家族は社会の細胞、核、基礎である」ことを中心にして役割を表現したもので、81名(37.0%)であった。

①社会での責任・役割

- ・家族の幸せが社会経済を発展させる。
- ・よい家族関係とメンバーの協力は社会発展の基盤となる。
- ・家族が良い人材を育てたら社会問題も減少する。
- ・社会は、教育・文化・文明の発展のために、家庭における道徳教育を活用する。
- ・一人ひとり、自分の才能と知恵で先進社会に貢献することができる。
- ・社会の良否の基本的な原因は家族である。お互いに尊重しあい幸せな家族を作りよりよい社会にすべきである。

- ・すべての人が責任感を持ち協力すれば平和な社会になる。
- ・家族がよりよい社会の発展のきっかけをつくる基本的な要因になる。
- ・家族の秩序、習慣が個性やライフスタイルに影響し、安全できれいな社会を構築する。
- ・家族は社会の細胞である。家族が安定すれば社会も安定し、発展する。
- ・よい社会は、個人が豊かな知識を持ち自己と社会に対して責任感を持つ。
- ・社会人としての役割、責任を意識して国の発展のために積極的に貢献する。

②家族の役割

- ・家族は社会に役立つ人材を育てることを担う。良い人材によって社会的問題は減少する。
- ・家族は社会の根底の動力である。家族は社会に直接に影響を与える一番大切な要素で良い人を育てることを担う。
- ・新しい世代を育成すること。経済、社会の発展には家族の役割は大きい。
- ・家族は社会の中で個人の個性を形成する最初の環境。幸せな家族を作れば社会も安定する。
- ・病気の時、辛い時に助け合う家族の役割は重要。
- ・親は将来、よい家庭を築けるように子どもを教育する。よい社会人になるように親が責任を持つ。
- ・家族は人間の人格を形成する基本的な環境である。
- ・家族が協力しあってお互いをサポートすることにより、社会の発展に役立つ。
- ・家族は子どもの人格を育て、職業を選択できるように教える大切な役割がある。
- ・家族は社会に役立つ人間を育てる「ゆりかご」である。
- ・家族は子どもにとって最初の学校である。祖父母・両親が生活の基本を教え、より良い世代づくりに貢献する。
- ・家族は子どもを教育する役割を持ち、知識をふやし、身を磨くように導く。
- ・家族は社会と人々の成長を形成する基礎的役割をもつ。

③家族関係

- ・国の発展は、豊かな家庭と良い学校教育によって達成される。
- ・家族が安定したら社会も強くなり、安定した社会は人間関係も良好になる。一人ひとり自分の能力を最大限発揮できる。
- ・家族により皆が癒され安心感を与え、ストレスを解消する。辛いことも乗り越えられる。
- ・世の中には困難な時もあるので、自分を助けて支えてくれるのは家族や周りの人である。
- ・工業化・近代化が進む現代の不安は、家族に癒され安心感が与えられて解消される。
- ・家庭は、必ず帰りたいところ。家族と一緒にが最も幸せ。

- ・経済的に困っていても家族が愛し合っていることが幸せである。
- ・家族の能力を開発するために家族の繋がりが重要である。
- ・経済的問題があっても家族の愛があれば幸せである。
- ・家族は互いに愛し合って家族関係をさらに強くすることが必要。
- ・家族の安定は国の発展に重要。近隣とよい関係を作り、家族関係が親密、子育てを重視することが必要である。

④家庭教育

- ・家族は子どもに人格教育をする。家族から良い教育を受けるとよい国民になる。
- ・親たちは、子どもの鏡なので、道徳的に生きることが大切。
- ・性教育をもっと充実(家庭教育・学校教育)させることが大切。問題に目を背けず、若者に対して説明することが、若者の客観的な考え方を醸成する。
- ・子ども達をしっかりと育てると、文明社会、安全な社会、発展する社会を築くことができる。
- ・人間の人格形成は、家庭の教育、家族から非常に大きな影響を受けている。両親の愛を持って人格の育成に大いに貢献するべきである。
- ・家庭は子どもの最初の学校、子どもは祖父母・両親から様々な基本を学ぶ。
- ・それぞれの家族をよくするために、社会が生活環境の改善、社会福祉の強化、生活のための条件を良くしなければならない。
- ・高齢化、核家族化のなかで、家庭教育と家族間の良好な関係は大切。
- ・伝統的な家族関係は、新しい社会発展に合わせられないため、親の指導が間に合わない。

⑤自立・自覚・個人化

- ・高齢化は国の経済・社会に大きな影響を与える課題を持つ。この課題を克服したら人々は安心して努力して働き、国もさらに発展する。
- ・経済発展する社会より道徳がある社会の方がより発展する。
- ・個人は行動の規範を創り、社会の道徳的基準の概念を形成する。
- ・現代の子どもたちは、以前に比べ情報の伝達が早く、社会のことを早く意識する。個人的行動が強くなった。
- ・幸せな家族を作れば子どもは家族の愛情を感じる。その子を受用することができれば将来自分の子どもに教えることができる。
- ・子ども達に事の善悪をきちんと教えれば、次世代に引き継がれる。

⑥相互作用・援助

- ・家族が幸せになったら親たちは安心して働き、子ども達はよく勉強する。家族の経済が豊

かになれば、国の経済も発展する。

- ・勝手な生き方について考えを改め、ボランティア活動に参加したほうがいい。
- ・家族は互いに助け合い、気遣い、特に祖父母や高齢者を支援しなければならない。
- ・ホームレスの高齢者と子どもに対する援助をさらに行うべきである。
- ・社会の発展のために家族は協力するが、影響を受けることもある。高齢化は社会発展の過程(傾向、動向)であり、その社会に合った人格形成が重要。
- ・年をとっても、自分の子どもや孫と暮らしたくない親はいない。今後、高齢者福祉に力を入れなければならない。

⑦問題点

- ・家族間の関係の無視や家族内暴力、妊娠中絶問題も増えている。家族計画の教育が必要。
- ・高齢化は国の経済、社会に影響を与える問題。この問題を解決する努力が必要。
- ・社会福祉施設の援助を希望する。消極的な対策でなく必要な援助が準備されれば、施設援助を頼む傾向が増える。
- ・ベトナムの社会は男女不平等社会であることが大きな問題になっている。女性の家事に協力する男性と、高齢者援助のために社会福祉施設の協力を必要とする。
- ・社会問題の原因は、子ども達の家族に対する関心の欠如に根差している。
- ・個人的な利益のために家族の面倒を見なくなっている。
- ・家族の関係は徐々に軽視されてきている。
- ・世代の格差で親と子どもが違う意見を持つ。また、毎日忙しいのでお互い理解するために話し合う時間も少ない。
- ・教育が完全に発展していないため、学生に十分な知識と道徳を伝えることができていない。
- ・高齢者施設ができて良いサービスが提供できたら、家族の仕事中に介護の依頼ができる。
- ・病気の家族の看病や介護で、家族が困ることがある。
- ・子どもの世話を十分にしていないため、自己中心でわがままな若者が増えている。

V. 考 察

1. 調査対象について

調査対象は学生や会社員が大半を占めた。

対象の性別では、母数の差が大きいため性別の総数で観察したが、ほぼ同じ傾向であった。

職業別では農業従事者が「なし」で残念であった。20～30歳代の対象は都市へ出て働くことが多いと思われる。高齢者問題は中部農村地帯に多いと言われている。今後の課題にしたい。

期待していたように、家族を思いやる気持ちや高齡化への対処の思いが感じられた。

インターネットを通しての調査であり、回答をいただいた対象は若い世代を代表しているとは言い難いが、219名の意見として重視したい。

2. 高齡化への認識

若い世代の考えかたは共通点が多く、基本的にはベトナム憲法、家族法、婚姻家族法、高齡者法に定められていることが回答に反映されていた。これは、国内で教育がされていることや社会と家族のつながり、家族メンバーの協力の重要性がPRされているからと思われる。

ドイモイ政策による社会の変革の中で、血縁共同体としての家族の結合は強く、伝統を重視した強いつながりをもっていた。社会保障が不十分な中で家族が助け合わなければならない実態もあるが、それ以上に家族を思いやる心を持ち合わせていた。

高齡者対策は、福祉制度がまだ十分に行き渡っていない現状であり、戦争という大きな犠牲の中から独立、平和、経済成長を遂げているベトナムのこれからの課題と感じられた。

高齡化の進み方が予測以上に早くなっていることは、若い世代にも行き渡り始めている。「高齡化問題は負担ではなく、私たちに新しい課題と機会を与えている」というユオン・クック・チョン博士¹⁸⁾は、「高齡者は社会に色々な貢献ができ、次の世代に様々な経験、知識を伝える人として尊敬する社会であるべきである」と主張している。

自由記載には多くの貴重な意見や考えが寄せられた。全部を記載できなかったのが残念であるが、共通の意見も多くこれからベトナムを背負っていく大きな力として期待できる。「家族は社会の細胞である」ということは、家族は社会の未来に影響するところ、社会にとって家族の役割が大切であること、全ての家族は幸せになり、繁栄し、家族メンバーの関係が良くなると社会に良い影響を及ぼすという考え方と思われる。育つ過程で家族がきちんとした家庭教育を継続し、学校教育につなげていくことが課題であるとしている。

今後のベトナムの経済福祉については、「家族関係の強化とさらに家族関係を良好にする」が最も重要な項目として挙げられていた。高齡化問題に対する情報も少しずつ行きわたり、国際化、情報化のなかで長い間培われてきた家族関係の変化に対応する術を模索していると思われた。

高齡化問題はアジア諸国のこれからの課題であり、今後も社会保障、医療、福祉対策の充実が望まれる。高齡者対策の先進国である日本では、高齡者の援助を社会の制度にゆだね、依存している傾向がないとは言えない。高齡者に介護技術を中心にしたケアだけでなく、優しい心のつながり、家族愛を持ったケアを基盤にすることが求められている。

3. 高齡になった家族の援助者として(家族の役割認識)

家族が高齡になった時の援助は、「自分および家族で援助する」が大半の回答であった。社会保障制度がどのようであっても、家族の援助は重要である。ベトナムではさらに医療やリハビリテー

ション、生活援助などが問題になる。健康増進や予防面に対する指導、それを担う専門職の養成も必要となる。

子育てをしながら働く場合は「祖母の協力」や「夫の協力」への期待が大きい。社会的援助だけに期待するのではなく、家族全体で助け合う気持ちがつながっていた。

ベトナムでは、男性と女性の仕事や役割が区別されているが、若い世代では互いに協力し合うように変化してきている。子どもが病気の時の休暇や、子育てのための制度を望む声も大きい。病気休暇や育児休暇制度もあるが、さらに活用しやすく整備されることが望まれる。

高齢になった父母の援助と仕事を両立させる難しさはどこの国にでもある。しかし、アンケートでは家族や兄弟が協力して援助と仕事を両立させるという考えが行き渡っていた。地域には家事援助中心のサービスもあり、十分普及しているとは言えないが期待される。

地域における高齢者へのサービスは限られた範囲であり、日本で学んでいるベトナムの学生たちは、地域サービスとしての訪問介護や高齢者のグループ援助に関心を持っていた。

家庭は必ず帰りたいところで、家族がすべてである。家族と一緒にいることは幸せで、家族関係が良いと家族と社会が発展する。将来は、時間と経済に余裕をもって両親の世話をしたいと願っている。困難な時に自分を助け支えてくれるのは、家族や身近な周囲の人たちである。どんなことでも家族が一緒だと乗り越えられるのである。

ドイモイ政策による社会の変革の中で、社会保障がまだ十分に行き渡っていないため、家族で助け合わなければならないことが多い。家族を思いやる暖かい心の繋がりが困難を克服していくのである。高齢化、核家族化が進むベトナムで、今後何が必要かについては「社会福祉の発展」と「家族の繋がりを強化する」を選んだことは、家族の役割をしっかりと持とうとしている現れと思われる。

自由記載欄には多くの意見が寄せられた。ベトナムの若い世代の方たちは、伝統的な家族関係と発展する社会とのギャップへの対応に、多くの意見を交わすことによって自己を高めようとしていると感じた。留学熱が盛んなことも理解できる。見えにくい世界を必死になって視ようとする意欲が新たな世界を創造すると思われる。

VI. ま と め

ベトナムの家族は、一つ屋根の下で生活し家計を共にしているという概念とは別に、多様な家族形態がある。ベトナム戦争後、多くのベトナム人が海外に渡り、父母兄弟姉妹が別々の国に分かれて住んでいても、いつも家族と一緒にいる意識を持ち続けていた。日本で暮らすベトナム人は、日本に定住しながら祖国や他の国に暮らす家族と繋がっていた。

家族から離れて他国に居住していても、身近に居住している以上に家族・親族は共同という意識を持ち続けられるのは、家族を思いやる気持ちが強く、また家族の中の役割や責任感が強い

ではないかと思われる。

しかし、最近では家族関係の無視や家族内の暴力、子育てに消極的、育児放棄も見られるようだ。アンケートでも、社会問題の原因は子ども達の家族に対する関心の欠如、家族の関係の軽視に根差していること、世代間格差をなくす努力と親子で異なる意見を理解する努力が必要等の意見が寄せられた。

高齡化は国の経済、社会に影響を与える問題でもあるので、社会福祉政策を積極的に進める必要がある。高齡化、核家族化のなかで、家族間の良好な関係は大切である。

かつてない速度で高齡化が進んでいくベトナムでは、医療、年金、社会保障、高齡者対策等の整備は勿論の事であるが、ベトナムで最も大切にされてきた社会の細胞である「家族」、居心地の良い家庭環境、人間関係を破壊することなく高齡化問題に対処することが望まれる。

司馬遼太郎¹⁹⁾は著書「人間の集団について—ベトナムから考える—」に以下のように書いている。「人間というのはいたわりあうべきものだという、かつてどの国の社会にもあった人情が、ベトナムではごく自然に豊かに息づいている。」さらに、「サイゴンでベトナム人にかこまれて暮らしていたあいだ、なんともいぬぬ快い気持のゆるみ、油断、(中略)無警戒な気持と言うものをたっぷり味わった。」「ベトナム人の大方の人柄がわれわれにそうさせるのである。」

これは、人間観察に関して誰よりも優れている著者の1974年の記録であるが、現在も脈々と息づいている。

謝辞

本研究は、ベトナムからの留学生DANG VO HOAI TRINH, TRUONG THI AI VAN, NGUYEN LE QUYNH NHU各位から多くの情報をいただいた。アンケートの作成にあたって、翻訳及びベトナムの若い世代の方達が理解しやすい表現について協力をいただいた。感謝申し上げます。

引用・参考文献

引用文献

- 1) 盛岡清美・望月 嵩 「新しい家族社会学」(四)訂版 培風館 1997 p. 4
- 2) 桂 良太郎 「ベトナムにおける家族の特徴と福祉」 奈良大学総合研究所所報 2002 pp. 99～109
- 3) 黒田学・他 「胎動するベトナムの教育と福祉」文理閣 2003 pp. 88～89
- 4) ル・テイ・ナム・トゥイエ、ラ・ナン・ティン 「変革期におけるベトナムの女性と家族」改訂版 アジア女性交流研究フォーラム 2002 pp. 1～27
- 5) 前掲書3)pp. 92～93
- 6) 坪井善明 『ヴェトナム新時代「豊かさ」への模索』 岩波書店 2013 p. 63
- 7) 前掲書6)p. 1
- 8) ベトナム社会主義共和国 基礎データ- 外務省
www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/data.html 2015.9

- 9) 今井昭夫・岩崎美佐紀編 「現代ベトナムを知るための60章」 明石書店 2004 pp. 151～155
- 10) 川上郁夫 「越境する家族—在日ベトナム系住民の生活世界—」明石書店 2001 p. 219
- 11) 寺元実 「地方の人々にとって身近な医療機関」海外研究員レポートIDE-JETRO 2014
www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Overseas_report/pdf/1401_teramoto.pdf 2014.8
- 12) 伊藤智朗 「ベトナム国における保健医療の現状」 国際医療協力部派遣第一課 2010
www.ncgm.go.jp/kyokuhp/library/health/pdf/201012_vetnam.pdf 2014.8
- 13) ベトナム医療情報化検討コンソーシアム 「ベトナムにおける地域医療ネットワークの展開可能性の調査」
平成26年2月
www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/kokusaika/downloadfiles/fy25kobetsu/outbound23.pdf 2015.11
- 14) ベトナム国家vgp news「ベトナムの社会福祉に関する言及」として「グエンタン ズン首相の応答」 2011年5月
- 15) 佐藤宏子 「ベトナムにおける高齢者扶養—ハノイ市郊外の在宅高齢者を対象として—」
シニア社会学会 エイジレスフォーラム第12号 2014 pp. 35～47
- 16) 近藤絨一「サイゴンから来た妻と娘」 文春文庫 1981 pp. 61～62
- 17) 前掲書9)pp. 171～174
- 18) DANG VO HOAI TRINH訳 「高齢化問題—課題と展望」ベトナム国民軍人新聞 2013年12月
- 19) 司馬遼太郎 「人間の集団について—ベトナムから考える—」サンケイ新聞社出版局 昭和48 p. 261,
pp. 259～260

参考文献

- 1) 和泉徹彦 「ベトナムの社会保障」海外社会福祉研究 第50号 平成17
- 2) 婚姻家族法」ベトナム社会主義共和国 ハノイ2000年6月9日
- 3) 小倉貞夫 「物語ヴェトナムの歴史 一億人のダイナミズム」6版 中公新書 2014
- 4) 岩上真珠 「ライフコースとジェンダーで読む—家族—」有斐閣コンパクト2008

注

- 注1) ドイモイ政策：1986年、第6回ベトナム共産党大会で打ち出した刷新政策を意味するスローガン。
企業の自主権の拡大、対外経済開放など資本主義的要素を取り入れ、人事面でも若手起用など民主化を進めた。単なる経済改革でなく、政治社会文化のあらゆる面での刷新を意味する。
- 注2) Universal Health Coverage：すべての人が適切な健康増進、予防、治療、機能回復に関するサービスを、支払い可能な費用で受けられるもので、より良い健康状態の追求と公平性の向上である。誰もが平等に保健医療サービスを受けられるようにする世界的な目標である。

添付資料

アンケート用紙

I. 次の質問の下線に記入し、項目に○をつけてください。

当ではまらない時は、その他の欄に自由に書いてください。

年齢 _____ 歳 性別 男・女 出身地 _____ 省 _____ 市 _____ 郡 _____
 未婚・既婚 (子ども、あり・なし) 同居の家族数(_____)人
 家族構成 (父、母、兄、姉、弟、妹、祖父、祖母、その他 _____ 計 _____ 人)
 職業 公務員、自営業、勤務員、農業、学生、その他(_____)

II. 次の質問のあてはまる番号に○をつけ、その他の欄は自由に書いてください。

[1] あなたの父母が高齢になった時、誰が援助しますか。1つ選んでください。

1	自分が援助する
2	兄弟姉妹や親族で援助する
3	近隣の協力を得る
4	地域のサービスを受ける
5	その他(_____)

[2] あなたの家庭では、将来、父母と同居するのは誰ですか。1つ選んでください。

1	長男か長女
2	兄弟姉妹
3	近隣に兄弟姉妹や親族が住む
4	誰も同居しない
5	その他(_____)

[3] あなたが働く場合は、子育てを誰に頼みたいですか。1つ選んでください。

1	父母に依頼する
2	兄弟姉妹や親族に依頼する
3	保育園や幼稚園に入れる
4	その他(_____)

[4] 子育てをしながら働くためには、どんなことが必要ですか。4つ選んで○をつけてください。

1	祖母の子育て協力	2	母親同志の協力	3	夫の育児協力
4	育児相談窓口	5	近くに病院が必要	6	安全な遊び場
7	家事代行サービス	8	安全な送迎バス	9	子どもが病気の時の休暇
10	その他(_____)				

[5]もしも、病気や高齢になった親を家において働かなければならない時は、どんな方法をとりますか。

1つ選んでください。

1	親の世話がしやすい仕事に変更する
2	仕事を半分にして、親の世話をする
3	兄弟姉妹や親戚、近隣の人に依頼して働く
4	親の援助が受けられる家事代行サービスを利用する
5	その他(

[6]ベトナムも高齢化、核家族化が進むといわれています。今後、どんなことが必要と思いますか。

4つ選んで○をつけてください。

1	高齢者の施設をふやす	2	病院をふやす	3	子どもの保育施設をつくる
4	高齢者の訪問サービス	5	家族の繋がりを強くする	6	近隣と連絡体制を強くする
7	さらに経済発展が必要	8	社会福祉の発展が必要	9	父母と同居
10	その他(

[7]未婚の方に伺います。将来、あなたの両親または配偶者の両親と同居を望みますか。

1つ選んで○をつけてください。

1	同居を望む	2	同居を望まない	3	自分の親なら同居を望む
4	配偶者の親との同居を望む	5	配偶者と話しあって決める		

[8]結婚している方に、同居の有無を伺います。以下の1または2に○をつけてください。

さらに1-1または2-2があてはまる場合は○をつけてください。

1	同居している	1-1	同居を望まないが同居している。
2	同居していない	2-2	同居を望んでいるができない

[9]今後、ますます発展をしていくベトナムの経済・福祉について、あなたが希望することはどんなことですか。

AからNのうち最も希望するものから順番に1から14を□内につけてください。

	A. 仕事を拡大していく		B. 家族の関係を良好にする		C. 海外留学・海外で働く
	D. 寄付や地域貢献活動		E. 保育園、幼稚園を増やす		F. 教育制度の充実
	G. 医療の充実		H. 福祉制度の充実・発展		I. 安全で、健康な社会
	J. 衛生的な環境整備		K. エネルギーの整備		L. 交通環境の整備
	M. 障害者に安全な町・施設の整備		N. 社会の工業化・機械化		

[10]これからの社会での働きかたや家族の役割について考えていることを、自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。